

「首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクトの全体像」

平田 直（プロジェクト総括／東京大学地震研究所 教授）



平田氏は「今日のシンポジウムは三つの性格を持っている。一つ目は成果報告会。サブプロジェクト (a) (b) (c) という三つの大きな分野からの報告があります。二つ目はデータ活用協議会を通じた活動について。民間研究者との共同研究がどのように進んでいるかを報告します。最後に、このプロジェクトが外から見たときにどうなっているかという話をしたい」と述べました。

平田氏はまた、国の地震調査研究推進本部地震調査委員会が、日本海溝沿いの長期評価を 26 日に公表したことについて触れ「8 年前にマグニチュード 9 の非常に大きな地震が起きた東北地方の太平洋沖では地震が起きやすくなっているのか、それとも、もう起きないのかということについて、国の防災対応の観点から、日本の研究者の総意を結集して公表したものである」と語りました。

平田氏は「マグニチュード 9 の超巨大地震は、これからしばらくの間は来ないだろうと考えられており、30 年以内に超巨大地震が発生する確率はほぼゼロになっている」としながらも「マグニチュード 7~8 の地震は東北の太平洋沖でまだ起きるということは、私が皆さまに一番伝えたいことである」と強調しました。

さらに首都圏について、「30 年以内にマグニチュード 7 の地震が起こる可能性は 70% です。中央防災会議は最悪のシナリオとして、2 万人を超える犠牲者と、60 万棟を超える全壊・焼失の被害があると予想している」と説明しました。

「デ活が目指しているのは社会の防災力の向上。研究の成果を単に社会に発信するのではなく、社会が何を求めているかを勉強し、必要なことを研究開発するということをデータ利活用協議会で進めてきた。現在、53の企業・団体の皆さまがデ活の正式な会員になっている。デ活では今日のようなオープンなシンポジウムを開催し、広く議論をしたいと思っている」と平田氏はデ活の意義について語りました。

